

あらかき通信

株式会社

ア **ラ** **キ** 工務店

〒615-0906京都市右京区梅津高畝町 52-2

Tel 075-882-8668

Fax 075-872-0223

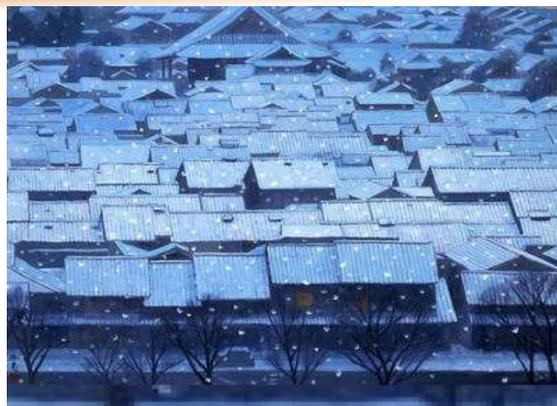
info@kyoto-kozai.com



なんで土地の値段が下がらんのだらうと思ったら、円安外国パワーの影響でした。

年初1ドル115円だった為替レートが今では140円(11/14現在)。2割安です。京都はネームバリューあるので、外国の投資家が殺到しているらしいです。某町家が得意な不動産屋さんに確認したら、「7割外国の方が買われます」とか・・・。

先日も、お客さんが悩んでいるうちに、現場も見ないで即金で買われちゃいました。なんとか庶民が買える相場になってほしいものです。街中がセカンドハウスばかりになると、活気がなくなりますね～



50年前の京都の町並

研修旅行 in 伊勢

コロナ禍で長らく中止をしていた研修旅行。第7波が下火になった9月9・10日に伊勢に行ってきました。初日は、千種清美先生のご案内で伊勢神宮を正式参拝。翌日は、内藤廣先生が設計した海の博物館を見学し、館長さんから建築時の苦労話なども聞く事ができました。また、歴代皇族の方の宿泊施設「賓日館」や、今日庵写しのお茶室がある「伊勢川崎商人館」などもNPOの方にご案内いただきました。

来年はどこに行けるかな？



↑ 研修風景はこちら

町家をトーク2022

去る10月11日、町家をトークの第2回が開催されました。今回は、「町家再生の実践」というテーマで、大工棟梁の足達君と、現場監督の小野君が登壇しました。第1回が大場先生だったので、大丈夫かいなとちょっと心配しましたが、2人で画面を見ながら、対談形式で1時間半ほど講演しました。

足達君に後で聞いたら、ぶっつけ本番とか。写真さえ画面に映れば、なんでも思い出して話せるってさすがです。ま、資料棒読みよりは、話は面白くてお客さんに受けたと思います。



現場を思い出しながら話す足達棟梁

中学生の「生き方探究・チャレンジ体験」を受け入れて

京都市が推進する表記事業がコロナ禍を乗り越え3年ぶりに再開されました。平成12年から実施され今年で22年目です。

職場体験・勤労体験・ボランティア体験を通じ「自ら考える」などの生きる力を身につける事業。受け入れる事業所もさまざま、コンビニ・スーパーなどの小売業から、介護施設などの社会福祉事業、消防署などの公的機関まで、延べ3,500の事業所が協力。弊社もその1社として3名の中学生を3日間受け入れた。

数ある事業所の中で、建築業界とりわけ工務店を選んでくれた3名の中学生。初日は映像を用いながらの座学で、建築の基礎をサラッと講義。特に歴史都市京都では、昔から伝統建築が大切に保存・継承されながら活用されてきた歴史を伝え、すぐそこに世界的にも優れた木造伝統建築がゴロゴロしていることを知ってもらった。やはり「灯台下暗し」、3人とも京都入門編である「金・銀・清水」でさえ全てを訪れた事がなかった(そういう私も中学生時には全て訪れてない)。



当社会議室にて プロジェクターを使って座学中

2日及び3日目はそれぞれ現場に入り、京町家の改修現場の見学と軽作業の実践。伝統木造建築といえば、社寺建築や数寄屋建築などがすぐ思い浮かぶが、京都には今も多数の伝統木造建築(京町家)が現存し、超有名社寺建築や数寄屋建築と同様に、京都の街並みや歴史に彩りを与えている事を伝えた。現場では、伝統工法を用いた改修方法や、古材を再利用した納まり、伝統的な間取り(仏間・床の間・蔵・縁側・座敷と庭の関係など)についても説明。もちろん3人とも現代っ子なので、家には床の間・仏間はもちろん、畳もない空間で生活しているので、海外の建築物を見学しているような感覚ではなかったかと思う。

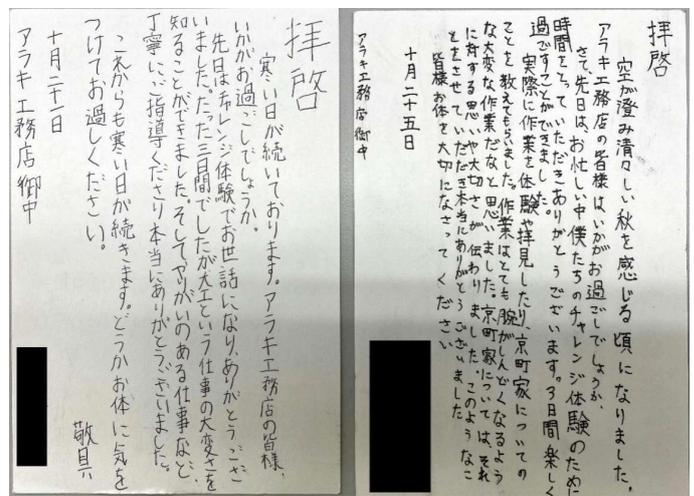
数ある業種の中で建築業界を選んでくれた貴重な3人の中学生。建設業就業者数は1997年の685万人をピークに2020年には492万人まで減少(28%減)。また、高齢化も著しく、建設業就業者の36%が55歳以上であり、29歳以下は12%と約1割しかいない。

また、大工人口は2015年の35万人から2030年には21万人に減少。人口と高齢化率は建設業全体と比べても大きい(55歳以上/39%・29歳以下/7%)。今後は大工不足が深刻化し、

大工一人あたりの生産性を1.4倍に引き上げないと現状(年間着工件数)が維持できない時代が8年後に迫る。国土交通省もこの事態を重く受け止めて「新・担い手3法」などの対策を取ってはいるが、未だに好転の兆しが無いのが現状。

少子・高齢化の人口減少時代の宿命とはいえ、特に若者に不人気の建設業界。弊社を、そして建設業界を選んでくれた3人の中学生たちは8年後には22歳になっている。業界を代表して建築の楽しさをしっかりとアピールしたものの、はたして数年後に3人のうち何人が業界入りしているのか？

小野 敏明



うれしいお便り♪

復活の京都『京町家今昔』

9月24日、キャンパスプラザ京都にて講演しました。会長が急にコロナで出られなくなって、ピンチヒッターで登壇。

準備する時間がなくて、過去の資料を寄せ集めてお話しましたが、上手く想いが伝わったでしょうか・・・。

密を避けるため、同じような話を2回に分けてスピーチ。130名×2回です。喉がガラガラになりました(笑)



会場をみると、倍入ってもまだ余裕がある感じなのになあ

構造改修工事について

元々の打ち合わせ段階では、外部塗装のみの予定だったのですが、縁側サッシの建て合わせが悪いというお話を伺い、そこから徐々に話が広がり、縁側とお風呂の改修工事をさせて頂く事になりました。解体したところ、かなり躯体が傷んでいました。

初めに、お風呂と縁側の解体工事から始めていきます。新設するUBの規格寸法に沿って床、壁、天井を解体していきます。壁を壊してみると、東側壁面と屋根を支えている柱、構造材がシロアリ被害と雨漏り被害で無いに等しい状況でした。このままUBを新設すると大変危ないので、急遽基礎から構造補強工事を始めることになりました。(写真①)



本来コンクリート打設は大工さんの仕事ではありませんが、弊社の職人さんは何でもこなして下さるのでとても頼りになります。

基礎が固まると今度は土台入れ作業です。本来であればこの作業から大工工事です。基礎の上に土台を据えていきます。床下の換気を確保するために、しっかりと基礎パッキンを土台下に取り付けていきます。勿論基礎と土台を緊結させるアンカーボルトも新しく取り付けていきます。(写真⑥⑦)



腐食している構造体、壁を解体する為に、ジャッキアップをします。ポストを2本立て、3寸5分の角材で桁を支えます。ジャッキアップをすることによって建物を強制的に持ち上げ、解体中に壁などが崩れ落ちないように簡易補強します。(写真②③)

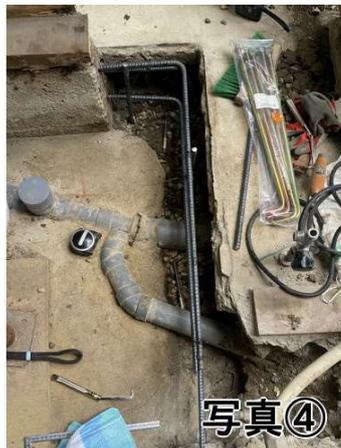


壁下地が完成し、断熱材もしっかりと入れていきます。今回防犯面を考え、窓は縦格子のサッシを取り付けました。格子にも色々な種類があり、井桁格子、ラチス格子、横格子がありますが、個人的に縦格子はコスパが良く、汚れが溜まりにくいので使用する事が多いです。今回外壁は吹付タイル仕上げですので、モルタル下地を塗ります。

左官屋さんにもルタル下地を塗って頂き、後は吹付仕上げですれば工事は完成です。現在はまだ施工中ですので完成写真はお見せ出来ませんが、完成が楽しみです。(写真⑧⑨)



土台を支える基礎も崩壊寸前でしたので、新しく基礎を打ち直します。鉄筋を入れ、盤木を仮設し型を作りコンクリートを打っていきます。(写真④⑤)



今回の工事を進めていく中で、職人さん達の適応力、対応力にとっても感心しました。現場監督は常に最悪の場合を想定して工事を進めていかなければならないと改めて考えさせられました。

島田 将也

住まいについていろいろな話 第31回 「建物の解体」

我々が主に手掛けている改修は、町家を基礎や構造から直したり、今の時代に合わせた生活ができるように直したりしています。また、町家でない戦後の建物でもリフォームして住むための御相談もしています。一方、解体しての新築も行います。市街地ではほとんど建物が建っているため、まずは解体から始まります。

今、家屋の解体には京都市の認可が必要です。京町家の場合は、1年前に届け出ます。これに違反して解体したり無届になると、罰金がきます。そうでない建物は7日前までに届けます。

京町家については、京都市は出来るだけ残したい方針なので、その1年間の間に持ち主といろいろと相談をして残す方向に説得するようにしています。場合により改修のための補助金も用意して、持ち主の金銭的な負担を減らし残すことに同意してもらえるように頑張っています。

さて解体となるといろいろと手続きがいります。まず電気を止める。これは契約者本人の連絡が必要なので持ち主さんに連絡してカットしてもらいます。電話も同様で一時停止にし、配線のカットを頼みます。次にガスを止める。大阪ガスに道路際でガス管カットを頼みます。光ケーブルも連絡して引き上げてもらいます。また共聴アンテナのケーブルが有ればこれも外してもらいます。これで設備は完了です。

水は必要なのでメーターは残し、屋内配管とメーターとの接続をカット。その上で工事用水栓を1カ所設けます。

次に、近所への挨拶回りです。ほとんどお客さんと一緒に回ります。挨拶を交わし工事開始日をお告げして工事期間のほしい日数を言います。特に洗濯物を干すときは注意していただくようにお願いします。

さらに長屋のうちの1軒を解体する場合は内部の壁が共用なので、雨に濡らさないように注意します。濡らして隣の家屋

に被害が出ればすべて弁償することになります。

お客さんには隣との境界線ははっきりと明示されているか、又は図面にて確定しているかとの話も致します。あいまいな場合は建物があるうちに何らかの話をするように促します。

これだけの準備を整えて解体を行います。この解体期間中は名前のわからない電話がかかってくるとドキドキし、う～ん、近所からの苦情か？ それとも警察からの駐車違反の指導か、と思いながら電話を聞くのですよ。結構ストレスでね、早く終わらないかそれまで何もありませんようにと祈る気持ちです。ア～～～思い出だけでも胸が痛くなる。

解体期間中のこの何とも言えないモヤモヤ感は、いつまでたっても馴れないですね。

村上 幸男

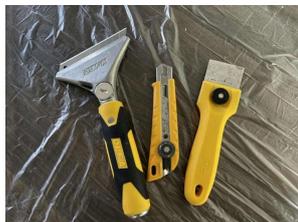


自宅で「壁紙メクリ DIY」をやってみた

本通信編集長より「現場の話じゃなくても良い」とのお達しがありましたので、今回は、プライベートでDIYに挑戦したお話を書きます。

私の自宅は古い鉄筋コンクリート造の集合住宅の1室で、壁紙がコンクリートに直貼りされています。良く言えばヴィンテージ(笑)な建物なので、ブルックリンスタイルとまではいなくても、コンクリートあらかわしのオトコマエな空間にならないか？ということで、壁や天井の壁紙を剥がしてみました。

壁紙(ビニルクロス)は、表紙と裏打ちと呼ばれる下地の2層構造になっています。通常貼り替え



の際には、表紙(おもてがみ)のみを剥がして裏打ちを残し、下地処理をした上で、新しい壁紙を貼るため、貼り替えの数だけ、裏打ちの下地が重なっている計算です。

作業前に、コンクリートに壁紙が直貼りしてある箇所を見定めます。木造の間仕切り壁などの壁紙を剥がしても、石膏ボードが出てくるだけで、コンクリートあらかわしにはならないからです。



剥がす面を決めたら、壁紙の表面にカッターで切れ目を入れ、手で引っ張って表紙を剥がしていきます。床は剥がした表紙やマスカーなどで養生します。

表紙が剥がれたら、裏打ちに霧吹きで水を吹きかけてふやかし、スクレイパーを使って1層ずつ剥がしていきます。結露でカビが発生している場合は手強いですが、たまにペロペロペロ一と広い範囲でめくると快感です。

最後に、パテの跡や、ふやけてペースト状になった糊をスクレイパーでコソゲ取り、仕上げに水拭きして完成です。



こうして文字にすると簡単そうですが、実際は大変な手間が

かかりました。今回は自宅ということもあり、楽しみながら作業することができましたが、もし、この作業を仕事で見積もるとしたら、いったい何人工計上すれば良いのだろう?と思います。

町家の改修の仕事をしていても思いますが、やっぱり躯体あらかわしの仕上げは良いですね～。最近では、経年変化が楽しめるエイジング素材が注目されているとのことですし、コンクリートに限らず、土壁や木材などをあらかわしで使用する建物を、増やしていけたら良いなと思います。

長崎 道



フォーラムひこぼえさんの コミュニティ館 新築

もえぎ設計さんの設計で、児童施設の新築を、去年の11月から始めて、約11か月かかり9月末やっと完成しましたので、ご紹介します。



左の写真は、玄関入ってすぐの写真です。階段のアイアンの手すり兼柵は、宇根田鉄工所さんの工事です。アイアンは、表情豊かで面白いです。タイルは、イナックス。ちびっこ用手洗い器は、アイカ。床は桧上小、壁はクロスです。

次の写真は、コミュニティ館を南側から撮った写真です。屋根は、西出瓦店さん。和瓦ですが、超緩勾配3寸から3寸5分です。外壁は、さくあんさんがモルタルを塗り、中村塗装さんにリシンを吹き付けていただきました。いい色に仕上がっています。左側足元、スロープは固まる真砂土で、石でできた花壇を囲むように配置されています。

一番手前、横に寝ている丸い棒状の石は、東建材さんに、現場にあった石の鳥居を再利用して設置いただきました。花壇の石は、里工房さんに積んでもらい、手前は座れるように平たくなっています。脚洗い場などの仕上も里さんです。花壇は、弊社安田くんにハナミズキを植えてもらいました。木の手すりや柵デッキは、弊社西川大工さんに作ってもらいました。いろいろたのしそうな場所満載です。

最後の写真は本館です。こちらの整備も行いました。これも10年以上使っていた建物です。屋根・外壁・内壁などリニューアルしました。屋根は樋上板金さん。外壁、内壁は、中村塗装さんです。

この敷地は広場があり、池があり、緑もあふれた気持ちのいい場所でした。いろいろ苦労しましたが、お客様もすぐ近くにいらっしやって、仕事しやすく楽しかったです。ありがとうございました。

荒木 智



私の休日

いつも工事の様子をご紹介させて頂いておりますが、たまには仕事を離れ、休日の過ごし方についてご紹介したいと思います。

小学2年生になる息子がサッカーを習い始めました。それまでは休日になれば「どこへ遊びに行く？」などと家族で出かけることが多かったのですが、息子がサッカーを習い始めてからは遊びに行く頻度が少し減ったように思います。その代わりに家族で試合の応援に行ったり、試合の帰りにそのまま出かけたりと、上手く予定を組んで楽しんでいます。最近ではサッカーが息子との共通点になり、色々な話しをする機会が増えました。たまにケンカもしますが、息子と向き合える時間が増えとても嬉しく思っています。

さて、入団したサッカーチームは歴史のあるチームで、そのためか試合がとても多く、週末になるとかなりの割合で試合に出掛けます。そしてその送迎、応援、ビデオ撮影も私の仕事で、息子のマネージャーをしている気分です。試合の帰り道にはその日の良かった点や反省点をアドバイスして次の試合に繋がるように心掛けています。おかげでビデオ映像の編集技術はとても上手になりました。

私も学生時代はサッカー部に所属しておりましたので、それなりに経験と知識があるつもりで居りましたが、子供に教えたりアドバイスすることは自分でプレーすることとは全く別であることに戸惑いを感じています。まだ子供なので、あまり多くを指摘すると拗ねたり怒ったりしますし、こちらもむきになって強く言ってしまうたりもします。方針としては、こちらから答えを教えるのではなく本人に考えて答えを導き出してもらえるように思っています。

インターネット等でも色々なお父さんが経験談を紹介されていたりしますので、そのような情報や周りのお父さんの意見交換も大切にしつつ、どのようにアドバイスするのが良いか日々勉強しています。息子のサッカーを通じ自分自身の成長にも繋がっているように感じます。最近では本人も上手になりたいという意欲が湧いてきたようで、練習が休みの日には「公園で練習しよっ！」などと頼も

しいことを言うようになりました。まだ低学年ですので、お父さんマネージャー生活はまだまだ続きそうです。これからも子供の成長と共に楽しい休日を過ごせたらと思います。

米沢 和也



公園でリフティング練習しているところ

工作機械を2台購入しました！

京都市さんから中小企業緊急対策支援をいただき、送付装置付帯のご機と超仕上かんな盤を購入しました。前者は大きな材料をカットする機械。厚さ1尺くらいの材料も2つに割ることができます。後者は幅1尺くらいの材料をかんな掛けすることができる機械です。長さ50cmの刃で一度に削れるため、手かんなのようにムラがでません。

どちらも自動で材料を送ってくれるので大変安全。作業もはかどるので、工期も短縮できます。高価な機械なので、大工さんたち、大切に使ってね♪



SNSもいろいろやっています♪

よろしかったら、フォロー、チャンネル登録をお願いします！

facebook

主にみんなが書いているブログをシェアしています。



Instagram

こちらは長崎さんが担当しています



YouTube

社長がきまぐれにスマホで撮ってアップしています。



葛石の入替

京町家の改修をどうしても避けて通れないのが、基礎の補強です。大抵の町家は、葛石と呼ばれる細長い石や一つ石が敷いてあって、その上に柱や壁が乗っています(昭和初期型はレンガや無筋の布基礎があったりします)。でも、大抵、不動沈下で石が下がったり、屋根の重みで石が割れたりしています。

この場合ほっておくと、また、将来下がりそうなので、石を入れ替えます。入れ替えると言っても、屋根や躯体が乗ってるから、かなり大変。柱の足元をカットし、油圧ジャッキで躯体を受けます。石を取り替えるだけではまた下がると困るので、一旦土を掘り起こして地盤を転圧し、ベース基礎を打たなければなりません。

これって誰の仕事？

実は大工さんの仕事になってます。化粧の構造体を一部解体して空中に浮かさなければいけないし、復旧も真壁が大半なので、後で化粧仕上にできるように考えながらやらなといけません。基礎屋さんだと手に負えないのです。

写真の左から順番に、古い葛石 ⇒ ベース基礎掘削 ⇒ 新しい葛石 となっています。ずっと下向いて肉体労働なので、大変な仕事です。腰に負担がかかります。なんとか楽できる方法ないかな〜と、いつも悩んでいます。

荒木 勇



実際にしもらったのが
こちら ↓↓↓



「少し」の加減

事務員の北岡です。皆さんからのお電話を受けるのはだいたい私です。何か困ったことがあったらいつでもお電話くださいね♪

「会長(荒木正亘氏)に後ろに立たれるのだけは、緊張するから嫌なんや」と言っていた大工棟梁の足達さん。弊社の大工さんでは一番年長で、会長の教えをしっかり継がれている一人です。

町家の改修工事は新築工事とは違い、建物に色々な歪みがあります。ただ、まっすぐ・きっちり直すのではなく、その歪みを考慮した上で、場合によっては少しの歪みを残し直した方が、仕上がりが美しい場合があるそうです。長年の経験がないと、できない職人技です♪

この「少し」の加減が住む方に心地良さと建物に美しさを与えるのかも。
事務員からの一言でした。(^^)

北岡 真由美

削ろう会北海道大会に参加

去る10月15・16日、第38回削ろう会が北海道の岩見沢で開催されました。当社からは、足達君と牛田君が参加。なんせ遠いので3泊4日の長旅です。

既に紅葉が見ごろとかで、だいぶ寒く、鮑の調子も悪くかなり苦労していました。でも、懇親会でいろんな方と知り合いになり、なんと、鶴工舎の小川棟梁も参加されてたようです！

なかなか上位入賞は果たせませんでした。これもいい経験ですね。次回は、新潟大会らしいです。新潟だと軽トラで行けない事もない(^)。

ただ、運転は大変だな～



麦みそ と 京町家

宇和島の伝統食『麦みそ』。平成27年に制定された食品表示法にあわないので、「みそと名乗るな」って指導があったとニュースで話題になりました(その後撤回されました)。

後から法律を作っておいて何をいうんだろうと、思いましたが、これって、後から建築基準法を作っておいて、それまでに建てられた京町家を「基準不適合だから、増改築するときは基準法に合わせなさい」というのとなんか似てる(・_・)

京都市も、また容積率緩和の話が出てきています。「京町家は不適合だから危ないですよ。解体して安全なマンションを建てましょう」という流れは何とか止めたいもんです。



毎日新聞

麦みそに「みそと名乗るな!」老舗店あぜん、行政の不可解な指導 | 毎日新聞

大久保君のお別れ会



京都建築専門学校から、現場監督として入社した大久保君。4年半と短い間でしたが、改修に新築に細かい修繕にと、大活躍してくれました。

この度、新しく独立する事になり、京都を離れることになりました。若いのに凄いです。

お別れ会の席上の写真です。『沢山の勉強、経験をさせて頂き、短い期間でしたが大変お世話になりました。本当にありがとうございました』との事でした。

お仕事をさせていただいた後のメンテナンスは当社でしっかりとさせていただきますので、遠慮なくご連絡くださいね。

嶋林君から一言

私は以前から古い建物にとっても興味があり、古い町並みや社寺仏閣を見学することが大好きです。なぜか(自分でもわかりませんが)特に古い木造建築物を眺めていると不思議と心が落ち着きます。

そんな中、建物の古材の良さを生かして京町家を保存されているアラキ工務店さんを知り、現場監督として入社しました。入社して直ぐの現場(京町家)は、江戸時代の文化8年(1811年)に建てられたそうで、大きな建物でとても大変ですが良いプレッシャーになります。完成するまで解らない事は、会社の先輩や現場の大工さんにしっかりと訊ねて訊ねて、少しでもお客様に喜んで頂き「アラキ工務店に仕事頼んで良かった」と思ってもらえる様にお客様に『寄り添える』現場監督でありたいです。『ぶれず、めげず、あきらめずに』頑張りますのでどうぞよろしくお願致します。



編集後記

最近、休日に刃物を研いだり、遠方まで買いに行ったりと、ちょっとした刃物ブーム。仕事の後も、自主的にノミやカンナを研いだりして、和気あいあいといった雰囲気になってきています。うれしいですね(^)/

労基法上は、早く帰ってもらわないとアカンなのですが、そこは自主性を優先し、自由にしています。

編集・発行 荒木 勇